

2月26日・27日開催 小高病院・総合病院の病床再編に係る市民説明会  
市民からの意見及び市の対応方針

番号	開催日	項目	意見要旨	対応方針(答弁概要)
1	26日	素案(全体版)1P 素案(概要版)1P 「背景・趣旨」	「賛成少数で否決」とあるが分かりにくい。賛成何人、反対何人など具体的に記載するなど、市民に分かりやすい文面にしてほしい。	議会で使われる定例句であり、ご理解いただきたい。
2	26日	素案(全体版)43P 「市立小高病院の収支シミュレーション」	有床にすると赤字が大きく膨らむ。その赤字を市で補填すると、今後小高区の住民が減っていく中で、市の財政負担が大きくなって、病院機能を維持できなくなるのではないかと懸念。	実態として、総合病院、小高病院も赤字であり、鹿島厚生病院も赤字で市から補填している状況。赤字だからといって閉院することはできない。必要なものは国からの補助をもらったり、場合によっては税金から一部負担をしてでも継続しなければならないと考える。その赤字が許容できる範囲なのか、税金から負担しても必要なものとして市民のみなさんに理解いただけるかどうか。また、赤字幅が少なくなるような経営努力が必要と考える。
3	26日	素案(全体版)43P 「市立小高病院の収支シミュレーション」	「在宅診療単価」について、無床と有床の場合で1万4千円の差があるが、その理由について教えてほしい。	無床の場合は常勤医1名で運営している現在の平均額を基に6千円として示しているが、有床の場合はスタッフを増加させ在宅医療を強化することにより、診療単価の増加が見込めることから2万円として示しているところ。
4	26日	素案(全体版)47P 素案(概要版)4P 「検討結果を踏まえた市立病院の再編方針」	小高区に戻ってきた1番の理由は、小高病院が19床の診療所として再開するから。再開するには医師確保など3つの条件が書いてあり、相双地域は医者が少ないのに、これを解決してからとなると、相当遅れることになる。これまでの認識を変えなければならず不安がある。今後どうなっていくの説明してほしい。	小高病院の問題は大事な問題なので、時間はかかるが、意見交換をして市民のみなさんが方向性を共有し、そのうえで始めることが重要であると考えている。拙速に始めても、数年後が変わってしまったら作ったものもダメになってしまうので、始めるにあたっては、賛成多数の環境をつくってはじめてほしい。4月以降の診療の継続についても、医師の確保は総じて厳しいところはあるが、期待している部分もある。今はみなさんと気持ちを一つにする大事な時間と思っているのでぜひご理解いただきたい。
5	26日	素案(全体版)47P 素案(概要版)4P 「検討結果を踏まえた市立病院の再編方針」	改革プラン策定委員会の結論について、平成28年度の改革プラン策定時の結論と今回の結論で何が変わったのか説明してほしい。	改革プランでは総合病院329床、小高病院0床であったが、今回の再編計画素案では総合病院が300床、小高病院19床を目指すものであり、最終の姿が大きく違うと捉えている。

番号	開催日	項目	意見要旨	対応方針(答弁概要)
6	26日	素案(全体版)47P 素案(概要版)4P 「検討結果を踏まえた市立病院の再編方針」	この地域は医師、医療スタッフが足りないで、効率性を上げて多くの患者を診れるように医療機能を1か所に集約すべき。在宅医療や遠隔診療を強化し、患者が病院に行くのではなく、医師が患者のところに行くといった大幅な医療提供体制の考え方の転換が必要であると考えます。	ご意見として伺いたい。
7	26日	素案(全体版)47P 素案(概要版)4P 「検討結果を踏まえた市立病院の再編方針」	小高病院は初期救急体制を整えて、原町の病院に速やかに移動できるような体制と、在宅の老人がきちんと診てもらえるような医療システムを構築してほしい。病床の有無より、現状の病院に何が必要かを考えてほしい。有床診療所の整備時期も明記されていないのできちんと示してほしい。若い人が安心して次の世代につなげるよう病院の財政の立て直しを図ってほしい。	総合病院の救急体制を整えること、市立病院の財政基盤をしっかりとすることはそのとおりと考える。そういう方向を目指していきたい。有床化の整備時期については医師の確保の問題もあり明示できないのが実態でありご理解いただきたい。
8	26日	素案(全体版)47P 素案(概要版)4P 「検討結果を踏まえた市立病院の再編方針」	学校や病院は赤字でもやらなければならない。それは市民に対する行政の責任である。費用対効果もあるが、小高が再興するための安全・安心については、費用だけでは測れない。原町にも鹿島にも病床があるのに小高には無くなってしまった。このままで分権分散の合併と言えるのか。	ご意見のとおり、市民の安全・安心のため、赤字でもやらなければならないことがあると考える。そのため、小高病院を無床とする方針を決めた改革プラン策定委員会のみなさまに、改めて、小高区の地域医療や住民の帰還促進などの観点を加え、今回検討いただいたところ。赤字に関しては、市からの継続的な支援が必要という、市内全体で共通意識を持つことが必要と考えており、そのためには説明会を行うなど、時間がかかる事についてはご理解いただきたい。
9	26日	素案(全体版)49P 素案(概要版)5P 「具体的な進め方の例」	具体的な進め方の例で、ステップ4では小高病院が19床になるとあるが、4年後にはこの姿になるという理解でよいか。ある程度期間を決めて進めていただきたい。	期間を定めるべきという点についてはご意見として伺いたい。順調にいてもステップ3までは最低1～2年はかかる。医師の確保などの課題があり、明確な期間は示せないが、方針が決まれば実現に向け努力していくのでご理解いただきたい。
10	26日	その他	小高病院に対する東電からの財物賠償はいくらもらっていてどのように管理しているのか、また、経営に対する損害賠償はどうなっているのか説明してほしい。	財物賠償と逸失利益がある。平成28年以前から徐々に支払われてきているが、金額が一番多いのは平成28年度の約14億円。うち財物賠償が約9億円。現在は小高病院の赤字補てんに使っている状況である。東電からの小高病院に対するお金については、小高で活用したい。

番号	開催日	項目	意見要旨	対応方針(答弁概要)
11	26日	その他	医師の確保が大切。先般、小高病院の常勤医師が退職する報道を見た。医師が考える医療の方針と市で進める方針の違いとあったが、方針がどう違ったのか具体的に説明いただきたい。	小高の地域医療提供体制に対する見解の相違のためという理由で退職願が提出された。19床を残すことについて、小高病院には病床は残さないで総合病院に一本化すべきだというお考えだと思う。
12	26日	その他	原発事故のせいで我々の生活がダメにされたので、帰還できるように国と東電が責任を持って医療施設の整備や医師確保をすべき。 また、国から補助を受けて、総合病院を難病疾患や専門の研究設備が整った良い病院にすれば、地域外に流出している患者が地域内で医療を受けるようになるし、地域外からも患者が集まると思う。	特色のある魅力のある病院にすべきということで、ご意見として伺いたい。
13	26日	その他	救急車が来てから受入病院が無く庭先に1時間とまっている状況。救急車が来てから1時間もかからないような体制をつくっていただきたい。	救急体制を充実すべきであり、現在、広域4市町村の中でも救急体制の強化について提案し協議を始めているところなのでご理解いただきたい。
14	27日	素案(全体版)47P 素案(概要版)4P 「検討結果を踏まえた市立病院の再編方針」	今の総合病院の医療提供体制について、救急時も含め、きちんとした医療技術を持って市民の命や健康が守れているのか、体制が整っているのか市民は極めて不安に思っている。市民から信頼される病院の体制をつくってほしい。 子供や子育て世代が戻ってくるよう小児科や産婦人科の体制をしっかりと整えてほしい。 小高病院については、無理して有床化するのではなく、ジャンボタクシーなど交通弱者に対する機能を高めて、市立病院や市内の病院へ移動できる体制を整えるべき。	救急医療については、輪番で6病院が交代で救急を受け入れる枠組みになっている。全体で年間4千7百件ほど。平均すると1病院あたり約8百件となるが、実態は総合病院が1千6百件で一番多い。医者の数が少ないことや専門医の数が少ないため、どの病院も受入が厳しいのが実態である。現在、広域4市町村の中でも救急体制の強化について提案し協議を始めているところ。できるだけ早く問題解決できるよう進めていきたい。小高病院の有床化については無理するなということで、ご意見として伺いたい。
15	27日	その他	総合病院及び小高病院の現在の診療体制などについて教えてほしい。	※診療体制等について説明
16	27日	その他	医療費無料はいつまで続くのか。	国が予算化しており、1年ごとに判断することとなっている。平成31年度は1年間無料にするということ伺っている。それ以降は1年ごとに判断されることとなる。
17	27日	素案(全体版)47P 素案(概要版)4P 「検討結果を踏まえた市立病院の再編方針」	小高病院の藤井先生が退職届をだすという内容の報道を見た。素案では4月以降も小高病院は継続する前提となっているが、本当に継続できるのか。	藤井先生にはなんとか継続していただけないかお話をしている。同時に4月以降も診療を継続できるようにいろいろと手を打っている状況。休診することは考えていない。

番号	開催日	項目	意見要旨	対応方針(答弁概要)
18	27日	その他	小高病院の解体費用については、平成30年度内であれば国の予算で取り壊すが、それ以降となった場合は市の予算でやらなければならないと聞いた。どのような状況なのか。	国の予算で取り壊しをしてもらえ前提で国と協議を進めている。
19	27日	その他	人工透析の体制について、市内では透析医療の提供体制が不足している。もっと増やしていただけるようお願いしたい。	現在の医師は専門化、細分化が進んでいる。透析専門医の数も少ない。いろんな分野の先生をまんべんなく来てもらわなければならないと感じている。
20	27日	その他	藤井先生がやめるという報道を見たが、何故止めるのか教えてほしい。	小高の地域医療提供体制に対する見解の相違のためという理由で退職願が提出された。藤井先生は小高には入院機能はいらぬというお考え。私としては、小高に帰ってきた人のため、さらには帰還促進のため、地域医療として住民に寄り添う姿として病床を残したいと考えた。ご留意申し上げているが今のところハイという返事はいただいていないところ。
21	27日	その他	現在の市立病院の財政状況や赤字・黒字の状況について教えてほしい。	総合病院で6~7億円の赤字。小高病院も無床の状態で約3千5百万円の赤字。鹿島厚生病院にも市で約7千万円補填している。仮にこの状態が続けばいずれ立ち行かなくなってくる。そうなった場合に民間病院に全て任せるのか、救急医療などは税金を使ってでも市立病院としてやるのかは、市民のみなさんとの相談になってくる。赤字を減らす努力はしていかなければならないが、地域医療の中核を担うのは、体力的にもスタッフの数などからも、現状として市立病院になってくると考える。
22	27日	その他	市立病院の医師・看護師の質が悪い。市民が市立病院に行かなくなる。どのように考えているのか。	病院の医局・看護部にご意見があったことを繋いで、少しでも改善し良い病院になるよう努めていく。
23	27日	素案(全体版)49P 素案(概要版)5P 「具体的な進め方の例」	医師の確保等が有床化の条件となっているが、計画素案にいつまでやるのかが記載されていない。いつまでにやるという市長の決意が必要ではないか。	ご意見として伺いたい。
24	27日	その他	小高の医療の問題は、震災や原発事故が大きく関係しているので、自治体だけで解決できる問題ではない。国や東電の関係の中で市長には政治力やリーダーシップを発揮してほしい。	小高病院の運営にあたっては、現在、県の補助金をいただいている。小高病院はそれでも赤字の状況である。今後も国・県等には引き続き支援を求めていきたい。
25	27日	その他	平成29年12月議会の状況は記載してあるが、現在の市議会の意向はどうなのか。	まだ素案の段階であり、成案となった後に、条例等の手続きで議会にかけることになるので、その段階で議員それぞれの具体的なご意向が示されることになると思う。